

ごみ減量・リサイクル推進週間(5/30~6/5)

に併せて「ぬまづ^{ごみゼロ}530PR」を行います

期間中、市役所の階段段差を利用し標語等を活用したごみの減量 PR や大沼市長がごみ収集車に搭乗し資源ごみ回収業務を体験します。

■事業の目的

5(ご)3(み)0(ゼロ)の語呂合わせから5月30日は「ごみゼロの日」と制定され、6月5日の「環境の日」を結ぶ期間は「ごみ減量・リサイクル推進週間」と定められています(主唱: 環境省 ※全国の都道府県や市町等と連携し、ごみの減量化やリサイクルの促進を呼びかけています。)

この期間に併せて、沼津市ではごみの減量化やリサイクルを促進するため啓発活動を行います。

■事業の内容

① 市役所の階段段差を利用してごみの減量を PR します

実施日: 5月30日(火)~6月5日(月)

市役所正面玄関前にある階段の段差を利用して、PRを行います。昨年度も実施し、来庁者からも好評だったことを受け、今年度も同様に実施するものです。

今回は沼津市が課題として取り組んでいる「3キリ運動(使い切り・食べ切り・水切り)」「雑がみの資源化」「埋め立てごみの減量」について標語などを用いてPRします。



昨年度の様子▷

② 大沼市長がごみ収集車に搭乗し資源ごみの回収業務を体験します

実施日: 6月1日(木)

回収作業場所: 原東沖(原地区)資源ごみ回収ステーション(右写真)
(原東沖自治会集会所(原 1702-28)前、東沖公園隣接)

| | |
|------------------|-------------------------------|
| タイムスケジュール: 8時10分 | 市長が市役所からごみ収集車に搭乗 |
| 8時40分 | 原東沖資源ごみ回収ステーションで回収業務実施(30分程度) |
| 9時10分 | 終了 |



市長自らが回収業務にあたるのはこれが初めてです。ごみ収集車に乗ってごみ回収ステーションで資源ごみの回収業務を体験し、ごみ減量やリサイクル推進についてPRします。

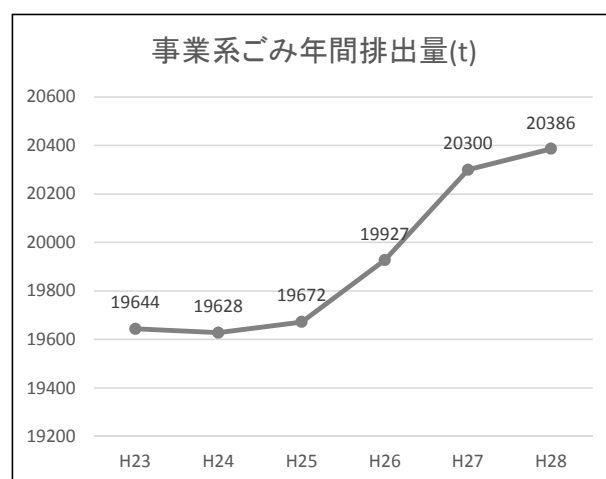
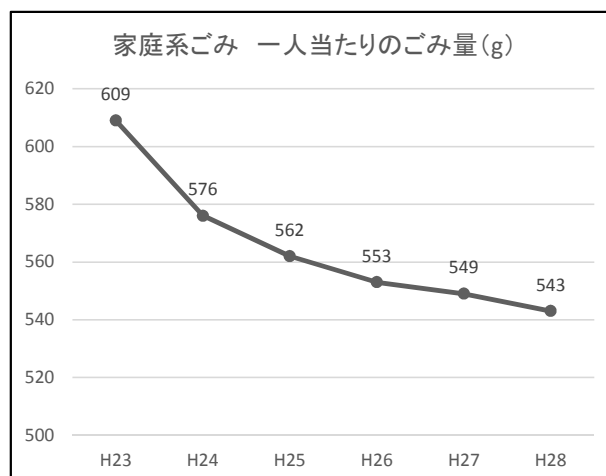
※ なお、広報ぬまづ6月1日号に啓発記事を掲載するほか、6月5日(月)開催の環境衛生美化推進大会で、生ごみ減量に関する講演会も予定しています。

ごみの種類別排出量(平成28年度)

(単位:t)

| 区分 | | 28年度 | 27年度 | 対前年度 |
|----------|-------|--------|--------|--------|
| 燃やすごみ | 家庭系ごみ | 30,360 | 30,845 | -1.6% |
| | 事業系ごみ | 19,914 | 19,756 | 0.8% |
| | 計 | 50,274 | 50,601 | -0.6% |
| 埋め立てごみ | 家庭系ごみ | 1,101 | 1,125 | -2.1% |
| | 事業系ごみ | 309 | 347 | -11.0% |
| | 計 | 1,410 | 1,472 | -4.2% |
| 資源 | 家庭系ごみ | 3,875 | 4,144 | -6.5% |
| | 事業系ごみ | 7 | 7 | 0.0% |
| | 計 | 3,882 | 4,151 | -6.5% |
| プラスチックごみ | 家庭系ごみ | 3,919 | 4,070 | -3.7% |
| | 事業系ごみ | 156 | 190 | -17.9% |
| | 計 | 4,075 | 4,260 | -4.3% |
| 合計 | 家庭系ごみ | 39,255 | 40,184 | -2.3% |
| | 事業系ごみ | 20,386 | 20,300 | 0.4% |
| | 集団回収 | 1,590 | 1,828 | -13.0% |
| | 計 | 61,229 | 62,312 | -1.7% |

※合計値は端数処理のため、表示の合計と異なる場合があります



○概要

総排出量は前年に比べ1.7%減の61,229tとなった。

種類別にみると、ごみの大半を占める「燃やすごみ」は、0.6%減の50,274tに留まっているが、「埋め立てごみ」や「資源ごみ」等が4.2~6.5%の減となっている。また、一人当たりの家庭系ごみは年々減少しているが、事業系ごみは増加の傾向にある。

○今後の取り組み

家庭系ごみの減量は、引き続きダンボールコンポストの普及や3キリ(使い切り、食べ切り、水切り)運動などを実施するとともに、「燃やすごみ」で出されやすい雑紙(菓子箱やハガキなど)を「資源ごみ」として、分別・排出するよう市民へ呼びかけていく。

事業系ごみの減量は、飲食店での食べ残し減量策として、ごみ減量・資源化推進協力店「すまいるしょっぷ」の対象店を拡大し、食べ残しゼロメニューや食べ残しお持ち帰り制度を採用する飲食店も認定していく。